

令和 8 年 7 月 1 7 日

令和 8 年度 1 学期 終業式 挨拶

皆さん、おはようございます。夏らしい暑い学期末を迎えました。皆さんにとって、1 学期はどのような日々だったのでしょうか。

(中略)

さて、今日の本題に入ります。皆さんに質問ですが、「絵画」と「イラスト」と聞くと、どちらが「上」だと思いますか？「上」とは何が「上」なのか？と思う人もいると思います。格だったり、世の中の評価だったり、社会的な地位だったり、と考えてください。

今日は皆さんに紹介したい絵があります。これから紹介する絵は、アメリカのノーマンロックウェル、という人が描いたものです。

これから見るものは芸術作品としての絵画なのか、それともイラストなのか、考えながら見てみてください。

(1 枚目のスライド)

Roadblock (邦題：通行止め)

1949 年 7 月 9 日号の”The Saturday Evening Post”表紙

これまで皆さんもどこかで見たことがあるかもしれません。最初は彼を代表する作品の一つ”Roadblock”です。1 枚の絵の中に様々なドラマが展開されています。表情豊かな庶民が描かれています。

(2 枚目のスライド)

Home from Camp (邦題：キャンプからの帰宅)

1940 年 8 月 24 日号の “The Saturday Evening Post” の表紙

2 枚目は彼の作品に頻繁に登場する子どもです。遠出をした子どもが無事に帰ってきたのでしょうか？お母さんが嬉しそうに迎え入れています。

(3 枚目のスライド)

DOCTOR AND DOLL (邦題：お医者さんとお人形さん)

1929 年 3 月 9 日号の”The Saturday Evening Post” の表紙

次は医師が子どもを相手に、人形のお腹に聴診器をあてて真面目に診察を行っている様子です。子供も真剣に診察を求め、医師は子どもからの要求に誠実に応えているようです。子供を見下したり馬鹿にしたりしない誠実な様子にユーモアを感じさせるものです。

(4 枚目のスライド)

Freedom from Fear (邦題：恐怖からの自由)

1943 年 2 月 20 日から 3 月 13 日にかけて”The Saturday Evening Post”に連続掲載

4 枚目のタイトルは”Freedom from Fear”というものです。訳すと「恐怖からの自由」つまり「恐怖から解放されていること」という意味です。すやすやと眠る二人の子どもとそれを優しく見守る両親。しかし、父親の手にある新聞の見出しには Bombing ki...「爆撃が殺し・・・」Horror hit....「恐怖が襲いかかり・・・」と読めます。新聞記事ではどこかで戦争か紛争が起きているようです。しかし、この家では、子どもたちは親の愛情の下で安心して眠っているのかもしれませんが。しかしお父さんはいつ子供たちも新聞にあるような恐ろしい世界に巻き込まれるのか？という不安にかられているとも考えられます。

(5 枚目のスライド)

Merry Christmas, Grandma... We came in our new Plymouth! (邦題：メリークリスマス、おばあちゃん！新しいプリマスで来たよ！)

1950 年 12 月 25 日号の”Life”誌掲載のプリマス車の広告

最後は、”Merry Christmas, Grandma”という作品です。クリスマスパーティーに遠くの祖父母の家を訪れる家族でしょうか。到着したことを大きな声で伝える孫の様子と、描かれてはいませんが、孫の声を聴いて、階段の上では、孫の訪問を心待ちにしていたおばあちゃんの笑顔まで想像できる作品です。

実は、今見たクリスマスの作品は、”Life”というアメリカの雑誌に使われていたイラストです。その他の作品も”Saturday Evening Post”という雑誌に掲載されたイラストです。ロックウエルという人は、その職業について、イラストレーターとして語られます。それは照明を落とした美術館の静かな部屋に飾られた世界の名画を手掛けた画家ではなく、雑誌の挿絵や表紙を描くイラストレーター、という肩書です。そして彼自身もイラストレーターという評価を受け入れていたと言われています。

しかし、先ほど見たとおり、20 世紀当時のアメリカ人がイメージする理想の家族像、故郷の風景、懐かしい子供時代の思い出等を鮮やかに描き出した彼の作品は間違いなく超一流の芸術作品と言えます。彼の作品を集めた画集のタイトルは”People’s Painter”つまり「大衆の絵描き」というものでした。当時のアメリカを実際に見たことがない私たちですら、彼の作品に描かれた世界に共感を覚えるのは、彼の作品がどれほど優しくて暖かいメッセージを私たちに伝えているのか、を表していると思います。

私たちはジャンルや枠組みで、物事を分類することがあります。しかし、ジャンルや枠組みを比較していると気づけないことがあります。それは、ど

のジャンルの中にも必ず超一流のものがあ、超一流の人がいる、ということ。い、いわばプロフェッショナルと呼ばれる存在です。周りから見れば、その国を代表する大聖堂を飾る大きな絵画こそが一流であり、雑誌のイラストは一流ではない、と思う人もいたでしょう。しかし、私は、毎週、雑誌の表紙にドラマをちりばめ、見た人一人ひとりが自分なりの物語を想像できる作品を提供し続けたロックウエルは、イラストレーターとして超一流のプロフェッショナルだと考えます。ロックウエルが「画家」か「イラストレーター」か、という枠で考えるのではなく、彼の作品そのものを見て、感じたことを素直に受け止められる目を私たちは大切にすべきです。雑誌のイラストでも人を感動させる本物があるということを忘れないでいてほしいと思います。

さあ、明日から長期休業が始まります。皆さんも他人からどう思われようと、ジャンルや枠組みにとらわれずに、そこにいる超一流を探してみてください。そして、皆さん自身が、ジャンルや枠組みにとらわれない、自分なりの超一流になってほしいと思います。班活、受験勉強、趣味等、やるべきことがいっぱいあるでしょうが、皆さんも本物を目指してこの夏を過ごしてください。また2学期に会いましょう。私からの話は以上です。